

昨年度の「指導改善プラン」の検証（成果と課題）

教科によっては、知識・理解など基礎の定着が不十分だったため、学習したことを自分の言葉で説明できるようなまとめ方を授業の中で取り組んだり、日常的に読書の時間を設定したり、語彙力を増やしたり、自分の考えを適切な言葉で表せるように書く時間を意図的に設定したりした。継続的な取り組みによって、全国の平均正答率を上回っている教科が増えてきた。しかし、教科によっては苦手意識をもっていることで、資料を適切に読み解くことに抵抗を感じてしまう児童もいるため、学習の目的意識をしっかりと提示し、定着させたい知識・技能を習得できるように継続的に指導をしていく。

全国学力・学習状況調査、達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題 ○成果 ▲課題

	第4学年	第5学年	第6学年
国語	○全国の平均正答率を上回っている。 ▲「話すこと・聞くこと」の平均正答率が全国の平均正答率を下回っている。必要な情報を整理することに苦手意識がうかがえる。	○全国の平均正答率を上回っている。 ▲記述式の問題の平均正答率が、区の平均正答率 6.5 ポイント下回っている。分かったことや伝えたいことを整理し、適切に表現する力に課題が見られる。	○全国の平均正答率を上回っている。 ▲「書くこと」の平均正答率が全国の平均正答率を下回っている。文章構成の理解が乏しいことや文章の書き方が分からないと感じていることがうかがえる。
社会	○「地理的環境と人々の生活」について全国の平均正答率を上回っている。 ▲「現代社会の仕組みや働きと生活」「歴史と人々の生活」についての問題で正答率が低い。資料の読み取りに課題がある。	○全国の平均正答率をやや上回り、学習内容が身について定着していることがうかがえる。 ▲「地理的環境と人々の生活」の平均正答率が全国の平均正答率を下回っており、知識の定着に課題が見られる。	○「日本の国土の地形や気候」では、全国の平均正答率を上回っており、既習内容が定着している。 ▲全国の平均正答率を下回っており、全体的に社会科に対する苦手意識が見られる。また5年生での学習内容への理解が課題が見られる。
算数	○数や計算の領域は正答率が高く、基本的な知識・技能が身に付いている。 ▲図形の問題について苦手意識がうかがえる。	○全国の平均正答率を上回っている。特に、「数と計算」と「データの活用」では、10 ポイント以上上回っている。 ▲「変化と関係」の平均正答率が他の領域と比較すると伸びが小さい。表や式に関連付けて数量の関係を捉えることに課題がある。	○全国の平均正答率を大きく上回っている。 ▲単位量あたりの大きさへの正答率が低いことから、基準量と比較表を文章から読み取りができずに立式していることがうかがえる。
理科	○知識・技能の基礎的な理解があり、思考・判断・表現についての正答率は高い。知識を生かしながら学習をする能力が身に付いている。 ▲記述する課題については、知識や理解に係る語彙の不足や表現の仕方の課題がある。	○平均正答率は全国の平均正答率を上回り、知識・技能及び思考力・判断力・表現力が概ね身に付いている。 ▲「物質・エネルギー」の領域は全国の平均正答率を上回っているものの、他の領域と比較すると正答率が低い。実験結果と根拠を関連付けて考察する力に課題がある。	○振り子の運動と天気の変化の中央値は全国の平均正答率と同程度であった。 ▲全体的に正答率が低く、基礎知識の定着が不十分である。

授業改善の方針

国語	文章の内容を正確に理解できるよう、中心となる語や文を見付けて要約する学習を重点的に行う。そして、理解したことをもとに、自分の考えを書き表す学習を設定する。国語の基礎的な力を身に付けるため、日常的に文章を読んだり、書いたりする学習を設定する。また、話し手の意図や必要な情報を整理しながら聞き取る活動や、目的に応じて考えを伝え合う活動を取り入れる。
社会	問題解決型の学習を通して、資料を読み取る活動及び、児童が学習課題に対して自分の考えをもち表現する活動や、その考えを学級全体で共有し話し合う活動を多く取り入れる。また、授業の終わりの単元の終わりにはまとめの時間を設け、定着させたい知識・技能を身に付けさせる。
算数	様々な具体物や児童の身近な事象から問題を設定するとともに、数量の比較や表や式など、問題において着目する点を明確にしながら児童が思考し、互いの考えを伝え合いながら理解できるようにしていく。また、前単元の学習を振り返り、既習をもとに児童一人一人の考えを広げて授業を行っていく。図形については、具体物の操作や図を用いた説明活動を通して、図形の構成要素や性質をとらえられるようにする。
理科	児童が自然の事物・現象に対し疑問をもち、主体的に問題解決に向かう授業を行っていく。観察・実験の場面で、単なる結果の確認にとどまらず、結果を考察・解釈して文章や図表で表現する指導を徹底していく。思考・判断・表現の観点を意識したり発問や振り返りの時間を確保したりすることで、確かな知識・技能の定着と活用力の育成を目指す。
音楽	自分の思いをもち音楽を通して表現できるよう、学習の場面を設定し、様々な表現方法等の知識・技能に触れられる授業を展開していく。また、ペアやグループ活動を段階的に取り入れ、友達と協働しながら「あわせて歌いたい」「あわせて演奏したい」気持ちを喚起していく。
図工	様々な材料に触れたり、用具を使ったりする中で、造形的な見方・考え方を働かせて、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さを感じられる授業を展開していく。いろいろな造形表現活動から自分の見方や感じ方を広げられるよう、造形遊び・絵・立体に表す活動を適切に行い、達成感や自己肯定感を高められるようにする。
家庭	家庭で実践したくなるような課題設定や動機付けを行い、学習を進めていくことで、学校での学習を家庭で試そうとする主体的な意欲につなげる。また、衣食住の学びを深める際に、家族の一員としてできることは何かを自ら考え家庭生活をよりよく工夫できるような力を育てる。
体育	各単元の導入を工夫し、運動への興味・関心を高め、運動に親しむ態度の育成を図っていく。発達段階に応じた課題解決の学習を通して、運動の行い方や解決の仕方を身に付けていくようにする。また、友達とのかかわりを通して課題解決と共に運動を行うことの心地よさを味わわせる。
外国語	外国語活動では、児童が苦手意識をもち、担任と連携し楽しく活動できるようにする。外国語科では、一つ一つの内容が言語活動になっているかを確認しながら単元計画を作成する。言語活動とは、児童が英語を用いてコミュニケーションを行う活動であり、児童が必然感や目的意識をもって取り組めるようにする。